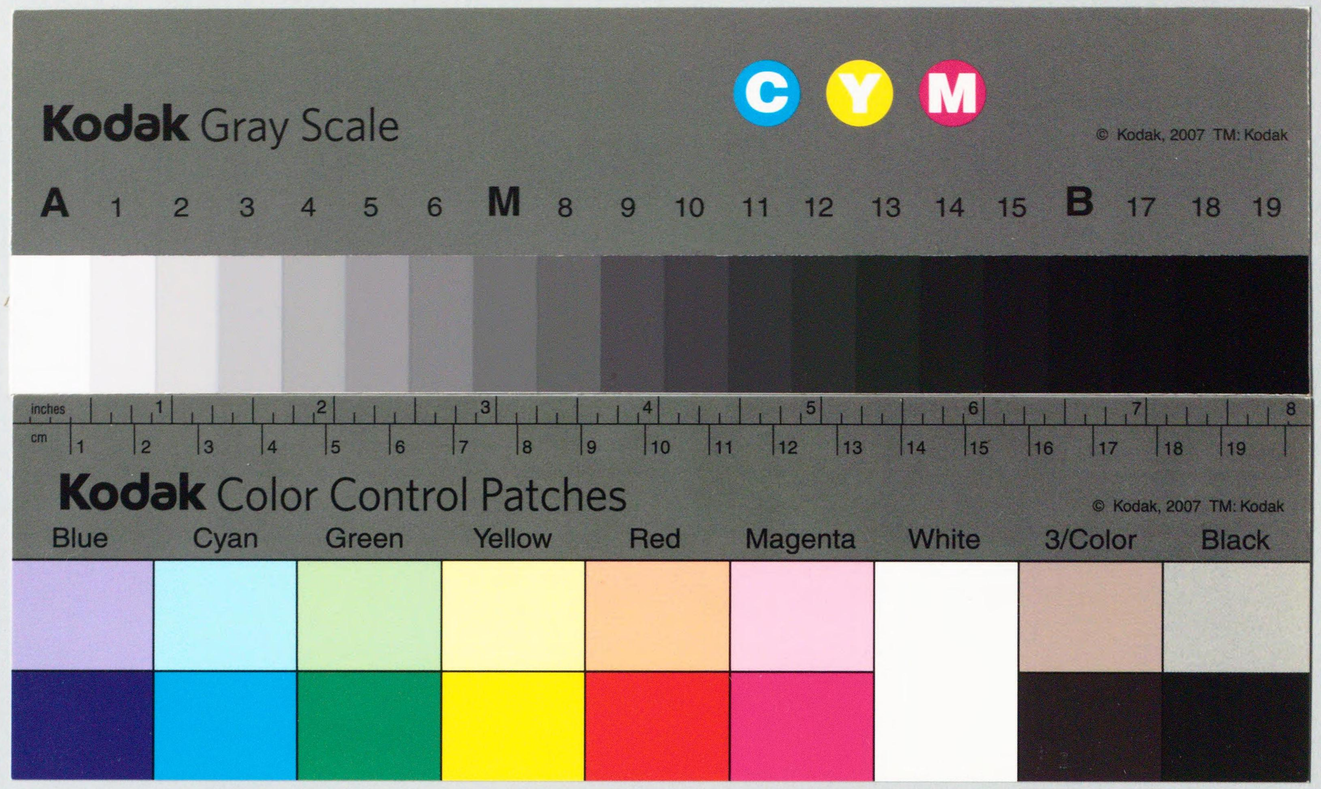

官報号外

昭和二十一年十一月十六日

訓令

◉内閣訓令第七号

各官廳

当用漢字表の実施に関する件

従來、わが國において用いられる漢字は、その數がはなはだ多く、その用いかたも複雜であるために、教育上また社会生活上、多くの不便があった。これを制限することは、國民の生活能率をあげ、文化水準を高める上に、貢するところが少くない。

それ故に、政府は、今回國語審議会の決定した当用漢字表を採択して、本日内閣告示第三十二号をもつて、これを告示した。今後各官廳においては、この表によつて漢字を使用するとともに、廣く各方面にこの使用を勧めて、当用漢字表制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣　吉田　茂

◉内閣訓令第八号

各官廳

「現代かなづかい」の実施に関する件

國語を書きあらわす上に、従來のかなづかいは、はなはだ複雜であつて、使用上の困難が大きい。これを現代語音にもとづいて用上の困難が大きいことは、教育上の負担を軽くするばかりでなく、國民の生活能率をあげ、文化水準を高めるる上に、貢するところが大きい。それ故に、政府は、今回國語審議会の決定した現代かなづかいを採択して、本日内閣告示第三十三号をもつて、これを告示した。今後各官廳においては、この「かなづかい」を使用するとともに、廣く各方面にこの使用を勧めて、現代かなづかい制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣　吉田　茂

告示

◉内閣告示第三十二号

現代國語を書きあらわすために、日常使用する漢字の範囲を、次の表のように定める。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣　吉田　茂

当用漢字表

まえがき

一、この表は、法令・公用文書・新聞・雜誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したものである。

二、この表は、今日の國民生活の上で、漢字の制限があまり無理がなく行われることをめやすとして選んだものである。

三、固有名詞については、法規上その他に関係するところが大きいので、別に考えることとした。

四、常用漢字を本体とし、現在慣用されている字体とを骨訓との整理については、閣議中である。

五、字体については、原字をそのまま採用し、ただ慣用されている字体をも参考にした。

六、この表の漢字で書きあらわせないことばは、別のことばにかえるか、または、かな書きにする。

七、書きにくい字・複雜な字・使用度の少ない字・音訓の多い字・同じ音・訓をもつ字などは、なるべくかな書きにする。

八、固有名詞・地名・人名は、外国の地名・人名は、かな書きにする。

九、外国から輸入した物品は、かなを書きにする。

十、外国から輸入した物品は、かなを書きにする。

十一、専門用語については、この表を基準とし、なるべくこれを使用する。

十二、この表の使用は、原則として、漢字を使用する。

糸米部　竹立穴部　禾示石矢矛部　目皿皮白癶疒部　田用生甘王玄部　犬牛片爻爪部　火部　水气氏毛比母殳歹止欠部

紹糸米簡竹立穴穂秀示石矢矛目盲直料眉省看眞眠眼睡瞬
紹糸粉筒笑並発穂弘祉砂知短　当田甲申男町畀畑畔留皆畝畠畳鑑盛皿
紹糸粒紀紐紙祐筋笹篠篩篭　百発癒疑　疫病症痛痢知癖
紹糸粥紀紐紙祐筆筒等節端簡　言的皆皇
紹糸粉紀紐紙祐筆筒等節簡　生
紹糸粉紀紐紙祐筆筒等節簡　主珍珠班現球理瑛瓊璽
紹糸粉紀紐紙祐筆筒等節簡　犬牛片爻爪　状牧物牲特猟　火　泉沼沿水氣氏毛比母殳歹止欠
紹糸粉紀紐紙祐筆筒等節簡　狂狩浪猛猶獄独　燈　燃　厭　猷　炭炎灰　燈営　炉（爐）　濁沢（澤）激濁濃濯濤濡濯濟濟　済　凌　清（淨）潤潮　滝　混　濃　沸　沖　河　沸　沼　沿　沼
紹糸粉紀紐紙祐筆筒等節簡　糸（絲）紘（經）紹（紹）紫（紫）　焦烈無熊然　煙　照　煩　熱　燃　燈　鳥（鳥）　（淨）　潟　清　活　流　浦
紹糸粉紀紐紙祐筆筒等節簡　糸（絲）紳（紳）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）　紙（紙）

身足走赤部　貝豕豆谷部　言角部　見酉衣部　行血虫垢部　艸色良舟舛舌臼至自臣部　肉聿耒而老羽羊岡缶部

身足走赤（赤）赦　貝（貿）貢貧貨　豚豆谷（豊）豪豪豪豪豪予（豫）　議試言訂討討訓記訟　角解触（觸）　見規視視親覚（覚）覧観（観）　酉酒衣裏裂裕補裝裸製複襲　血蚊蟹虫（蟲）虫蛋（蟲）蚤（蟻）　行衛衝衡　艸芽芝花芳芋苗若英茂茶草荒荷荘芙（蓉）　色良舟航般船艇艦　舞　舌舗　臼至臨　自臭　臣臨　肉肉肉

例
ちぢみ(縮み)　ちぢむ(縮む)
つづみ(鼓)　つづら(葛籠)
づく(続く)　つづる(綴る)

第四　ワに発音されるはは、わと書く。たゞし助詞のはは、はと書くことを本則とする。

例
かわら(瓦)　かわ(河)　にわ(庭)
あらわす(著す)　まわる(廻る)
こわれる(毀れる)
あらわない(洗はない)　あつかわない(扱はない)　うたわない(歌はない)
かわいらしい(かはいらしい)　くわしい(詳しい)　けわしい(険しい)
にわかに(俄かに)　すなわち(則ち)
びわ(琵琶)　びわ(枇杷)

第五　イに発音されるひは、いと書く。

例
うぐいす(鶯)　たい(鯛)　はい(灰)
いいわけ(言訳)
ついやす(費す)　たいらげる(平げる)
ならいます(習ひます)　おもいます(思ひます)　したがいます(従ひます)
ちいさい(小さい)　こいしい(恋しい)　ついに(遂に)

第六　ウに発音されるふは、うと書く。

例
あらう(洗ふ)　まう(舞ふ)　あうう(合ふ)　かう(買ふ)　うたう(歌ふ)
しなう(撓ふ)　いう(言ふ)　くう(食ふ)　すう(吸ふ)　ぬう(縫ふ)
ゆう(結ふ)　くるう(狂ふ)　あらそう(争ふ)　うけおう(請負ふ)　おもう(思ふ)
あやうい(危い)

第七　オに発音されるふは、おと書く。

例
あおい(葵)
あおぐ(仰ぐ)　あおる(煽る)　たおす(倒す)

第八　エに発音されるへは、えと書く。たゞし助詞のへは、へと書くことを本則とする。

例
かえる(蛙)　いえ(家)　まえ(前)
かんがえ(考)
かえる(帰る)　さえずる(囀る)
すくえ(救へ)　ひろえ(拾へ)
さえ(助詞さへ)

第九　オに発音されるほは、おと書く。

例
いきおい(勢)　かお(顔)　しお(塩)、
におい(匂)　おおかみ(狼)　おおやけ(公)　こおり(氷)　こおろぎ(蟋蟀)　ほおずき(酸漿)　ほお(頬)　ほおのき(朴木)　もよおし(催し)
なおす(直す)　しおせる(爲遂せる)　とどこおる(滞る)　とおる(通る)
おおい(多い)　おおきい(大きい)

第十　ユの長音は、ゆうと書く。

例
一、いうをゆうと書くもの
ゆうじん(友人)　ゆうげん(幽玄)
ゆうびん郵便)　ゆうわく(誘惑)
りゆう(理由)　しよゆう(所有)
ゆうぎ(遊戯)　ゆうぜん(悠然)
ゆうりよ(憂慮)
二、いふをゆうと書くもの
とゆう(都邑)
三、ゆふをゆうと書くもの
ゆうがた(夕方)
エ列長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

例
ねえさん(姉さん)　ええ(應答の語)
オの長音は、おうと書く。

例
一、あうをおうと書くもの
おうか(櫻花)　ちゅうおう(中央)
おうむ(鸚鵡)　おうう(奥羽)
二、わうをおうと書くもの
よおう(暹羅)
おうらい(往來)　こくおう(國王)
おうせい(旺盛)　おうじ(皇子)
おうどん(黄金)　おうし(横死)
あふをおうと書くもの
おうぎ(扇)　おうみ(近江)
おうとつ(凹凸)　おうなつ(押捺)
おうりよくこう(鴨緑江)

第十一　ヨ列長音は、ヨ列のかなにおをつけて書く。

例
とおい(遠い)
なお(猶)

第十二　オの長音は、おうと書く。

例
一、いうをゆうと書くもの
ゆうじん(友人)　ゆうげん(幽玄)
ゆうびん郵便)　ゆうわく(誘惑)
りゆう(理由)　しよゆう(所有)
ゆうぎ(遊戯)　ゆうぜん(悠然)
ゆうりよ(憂慮)
二、いふをゆうと書くもの
とゆう(都邑)
三、ゆふをゆうと書くもの
ゆうがた(夕方)
エ列長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

例
ねえさん(姉さん)　ええ(應答の語)
オの長音は、おうと書く。

例
一、あうをおうと書くもの
おうか(櫻花)　ちゅうおう(中央)
おうむ(鸚鵡)　おうう(奥羽)
二、わうをおうと書くもの
よおう(暹羅)
おうらい(往來)　こくおう(國王)
おうせい(旺盛)　おうじ(皇子)
おうどん(黄金)　おうし(横死)
あふをおうと書くもの
おうぎ(扇)　おうみ(近江)
おうとつ(凹凸)　おうなつ(押捺)
おうりよくこう(鴨緑江)

第十三　コおよびゴの長音は、こう、ごうと書く。

例
一、かうをこうと書くもの
こうじ(麹)　こうかい(弁)　こうべ(神戸)
さこう(咲かう)　きこう(聞かう)
こうばしい(かうばしい)
あこう(赤う)　ちこう(近う)　こう(斯う)
こうりん(好運)　こうりよ(考慮)
ほうこう(方向)　しゅこう(酒肴)
こうすい(香水)　こうき(讃美)
こうざん(高山)　こうかい(航海)
こうふく(幸福)　こうか(效果)
こうつう(交通)　こうふく(降伏)
こうふう(校風)　こうい(行爲)
けんこう(健康)
二、くわうをこうと書くもの
とうせん(光線)　こうだい(宏大)
こうきよう(廣狭)　こうしよく(黄色)　こうぞく(皇族)　こうてん(荒天)
三、かふをこうと書くもの
こうおつ(甲乙)　たいこう(太閤)
こうかく(岬角)
四、こふをこうと書くもの
こう(刼)

五、がうをごうと書くもの
いそごう(急がう)
なごう(長う)
ばんごう(番号)　さいごう(西郷)
ごういん(强引)　ぶんごう(文豪)
ごうぜん(傲然)
六、ぐわうをごうと書くもの
ごうごう(轟々)
七、がふをごうと書くもの
いちごう(一合)
八、ごふをごうと書くもの
えいごう(永劫)　ざいごう(罪業)

第十四　ソおよびゾの長音は、そう、ぞうと書く。

一、さうをそうと書くもの
はなそう(話さう)　かえそう(返さう)　ちらそう(散らさう)
あそう(浅う)
そう(然う)
そうじ(掃除)　いっそう(一双)　そうが(爪牙)　そうちよう(早朝)　そうい(相違)　そうこ(倉庫)　じゅうそう(重荷)　そうねん(壯年)　たいそう(体操)　そうもく(草木)　そうどう(騒動)　そうとう(闘)　そうしつ(喪失)　そうしき(葬式)
二、さふをそうと書くもの
そうろう(候ふ)
そうわ(挿話)
三、ざうをぞうと書くもの
せいぞう(製造)　そうしよ(藏書)
そう(象)　しょうぞう(肖像)

四、ざふをぞうと書くもの
ぞうきん(雑巾)

第十五　トおよびドの長音は、とう、どうと書く。

例
一、たうをとうと書くもの
とうげ(峠)　たどうがみ(畳紙)
うとう(打たう)　かとう(勝たう)
たとう(立たう)
いとう(痛う)　かとう(堅う)
とうけん(刀剣)　とうしょ(島嶼)
とうばつ(討伐)　とうそく(盗賊)
さとう(砂糖)　とうぜん(当然)
ねつとう(熱湯)　おうとう(櫻桃)
とうき(陶器)　きとう(祈禱)　ついとう(追悼)
二、たふをとうと書くもの
とうべん(答弁)　とう(塔)・とうは(踏破)　すいとう(出納)
三、だうをどうと書くもの
どうろ(道路)　こうどう(講堂)　いどう(海棠)　ぶどう(葡萄)

第十六　ノの長音は、のうと書く

例
一、なうをのうと書くもの
しのう(死なう)
あぶのう(あぶなう)
だいのう(大脳)　くのう(苦悩)
うちゅう(嚢中)
二、なふをのうと書くもの
のうにゅう(納入)
三、のふをのうと書くもの
きのう(昨日)

第十七　ホおよびボ、ポの長音は、ほう、ぼう、ぽうと書く。

例
一、はうをほうと書くもの
ほうき(箒)　ほうむる(葬る)
ほうこく(報告)　ほうか(邦家)　こくほう(國宝)　ほうさく(方策)　ほうかつ(包括)　ほうび(褒美)
二、ぼふ(またはぽふ)をほうと書くもの
ほうる(投る)
ほうりつ(法律)　ほうし(法師)
三、ぼうをぼうと書くもの
はっぽう(八方)
四、ぽふ(またはぼふ)をぼうと書くもの
りっぽう(立法)　せっぽう(説法)
五、ぽうをぼうと書くもの
あそぼう(遊ばう)　とぼう(飛ばう)
はこぼう(運ばう)
ぼうどう(暴動)　ぼうけん(冒險)
ぼうず(坊主)　しょぼう(書房)　めつぼう(滅亡)　きぼう(希望)　ぼうちょう(膨脹)
六、ぽふ(またはぼふ)をぼうと書くもの
びんぼう(貧乏)
七、モの長音は、もうと書く。

例
一、まうをもうと書くもの
もうける(儲ける)　もうす(申す)
やすもう(休まう)　たのもう(願まう)
あもう(甘う)　せもう(狭う)
もうはつ(毛髪)　もうどう(妄動)
もうもく(盲目)　ほんもう(本望)
もうまく(網膜)

第十八　ロの長音は、ろうと書く。

例
一、らうをろうと書くもの
いのろう(祈らう)　かえろう(帰らう)
くろう(暗う)　かろう(辛う)　あろう(粗う)
ろうじん(老人)　ろうどう(労働)
めいろう(明朗)　そうか(廊下)　たろう(太郎)
二、らふをろうと書くもの
ろうそく(蠟燭)　きゅうろう(旧臘)
第二十一　キュおよびギュの長音は、きゅう、ぎゅうと書く。

例
一、きうをきゅうと書くもの
おおきゅう(大きう)
きゅうよう(休養)　きゅうりょう(丘

（要求）　あゆらて（仇敵）　あゆら（永久）　上らあゆら

×（炎）

三、きふをあゆらと書くもの

ちゆうか（感嘆）　きゆうらだい（及第）

こきゅうら（呼吸）　しきゅうら（賭博）

（級）　かんきゅうら（感泣）　きゅうら上

（給与）

三、ぎらをきゅうらと書くもの

きゅうらにゅうら（牛乳）

第二十二　ジョおよびジョの長音は、しゅうら、じゅうらと書く。

例

一、しらをしゅうらと書くもの

しゅうらと（頭）　しゅうらとあ（姑）

×

あたらしゅうら（新しい）　すすしゅうら

（涼しい）

しゅうらうら（修養）　しゅうらん（舟

運）　しゅうらじん（囚人）　ゆうらしゅうら

（憂秀）　しゅうらぎょうら（彼女）

しゅうらにゅうら（吸入）　しゅうきょう（夏案）

ばんしゅうら（晩秋）　きゅうらしゅうら

（九州）　しゅうきょうら（酒長）

×

しゅうら（聞）　こんしゅうら（今週）

二、しふをしゅうらと書くもの

しゅうらとく（給与）　しゅうらちゃく

（執着）　しゅうらゆうら（集中）

しゅうあい（愛名）　れんしゅうら（練習）

（編）　×

三、じらをじゅうらと書くもの

じゅうらん（柔弱）　じゅうらい（獣

類）

四、じふをじゅうらと書くもの

じゅう（十）　ほんじゅうら（雲汗）

じゅうきゅう（十球）

×

五、ぢゆうらをじゅうらと書くもの

じゅうらゆく（重役）　じゅうきょ（住

居）　まんじゅうら（饅頭）

×

第二十三　チョの長音は、ちゅうらと書く。

例

一、ちらをちゅうらと書くもの

はくちゅうら（白書）　ちゅうぞう（鑄

造）　ちゅうらだい（紐帯）　×　ちゅうら

（宇宙）　ちゅうらしゅつ（抽出）　せい

ちゅうら（製）　×

第二十四　ニョの長音は、にゅうらと書く。

例

一、にらをにゅうらと書くもの

にゅうらわ（柔和）

二、にふをにゅうらと書くもの

にゅうらが（入学）

第二十五　ヒョおよびビョの長音は、びゅうらと書く。

例

一、ひらをひゅうらと書くもの

ひゅうらが（日向）

二、びらをびゅうらと書くもの

こびゅうら（霰）　×

第二十六　リョの長音は、りゅうらと書く。

例

一、らをりゅうらと書くもの

りゅうら（翁意）　せんりゅうら（川柳）

りゅうきゅう（流行）

二、りふをりゅうらと書くもの

こんりゅうら（建立）　いちりゅうら（一

粒）

第二十七　キョおよびギョの長音は、きょうらと書く。

ぎょうらと書く。

一、きゃらをきょうらと書くもの

きょうらだん（饒舌）　ねっきょうら（熱

狂）　きょうらだい（兄弟）　きょうらそ

ら（競走）　きょうらだい（鏡台）　きょ

うりょく（強力）　とうきょうら（東京）

きょうらもん（経文）　こきょうら（故

郷）　きょうらおう（饗応）

×

二、けらをきょうらと書くもの

きょうらう（経営）　きょうらい（教

育）　てっきょうら（鉄橋）　きょうらぼ

く（稀）

×

三、けふをきょうらと書くもの

きょうら（今日）　きょうらい（教

会）

きょうりょく（協力）　きょうきゅう（侠

気）

×

四、ぎゃらをきょうらと書くもの

しゅぎょうら（修行）　にんぎょうら（人

形）

五、げらをぎょうらと書くもの

こんぎょうら（今晩）　ぎょうらしゅん

（狂）

×

六、げふをぎょうらと書くもの

ぎょうらわ（業務）

第二十八　ショおよびジョの長音は、しょうらじょうらと書く。

例

一、しゃらをしょうらと書くもの

しょうらじき（正直）　しょうらい（将

賢）　しょうらさい（詳細）　ふしょうら

（負傷）　いっしょうら（一生）　しょうら

か（唱歌）　しょうらい（将来）　ぶん

しょうら（文章）

二、せらをしょうらと書くもの

まいりましょうら（参りましょう）　よい

でしょうら（よいでしょう）

しょうらせつ（小説）　しょうらねん（少

年）　しょうらそく（消息）　しょうら

しゅう（召集）　しょうらたい（招待）

しょうらあい（昭和）　びしょうら（微笑）

しょうらつ（焦）　あんしょうら（暗

礁）

三、せふをしょうらと書くもの

こうしょうら（参）　ぞうしょうら（妻）

×

しょうらけい（銀経）

四、じゃらをじょうらと書くもの

じょうらず（上手）　かんじょうら（感情）

じょうらたい（状態）　じょうらほ（譲歩）

じょうらじゅ（成就）　じんじょうら（尋）

常）

五、ぢゃらをじょうらと書くもの

しじょうら（市場）　れいじょうら（令嬢）

じょうらぶ（丈夫）　じょうらせき（定石）

じょうら（錠）

六、ぢらをじょうらと書くもの

じょうらせつ（憲法）　そうじょうら（留）

×

七、でらをじょうらと書くもの

さんじょうら（三條）

八、でふをじょうらと書くもの

ろうじょうら（大蔵）　いちじょうら（一

帖）

×

第二十九　チョの長音は、ちょうらと書く。

例

一、ちゃらをちょうらと書くもの

ちょうらかい（町会）　ちょうらたん（食

短）　ちょうら（陽）　ちょうらしゅ（鳴

更）　ちょうらん（拝懇）　いっちょうら

（一）

×

二、てらをちょうらと書くもの

ちょうらでん（弔電）　ちょうらい

（鳥類）　ちょうらしょく（朝食）

ぜんちょうら（前兆）　ちょうらし（調子）

ちょうらこく（彫刻）

三、てふをちょうらと書くもの

ちょうら（蝶）　つうちょうら（通牒）

×

第三十　ニョの長音は、にょうらと書く。

例

一、ねらをにょうらと書くもの

にょうら（尿）

第三十一　ヒョおよびビョの長音は、びょうらと書く。

例

一、ひゃらをびょうらと書くもの

びょうらはん（評判）　びょうらえき（平

×

（灰）　たいびょうら（大兵）

二、ひらをびょうらと書くもの

びょうらり（表裏）　にびょうら（二俵）

とうびょうら（投票）　びょうら（豹）

×

三、びゃらをびょうらと書くもの

びょうらぶ（屏風）　びょうらき（病気）

×

びょうら（鋲）

四、びらをびょうらと書くもの

びょうらしゃ（猫）　れいびょうら（霊柳）

×

第三十二　ミョの長音は、みょうらと書く。

例

一、みゃらをみょうらと書くもの

みょうらにち（明日）　じゅみょうら（譜）

命）　みょうらだい（名代）　みょうらが（

×

二、みらをみょうらと書くもの

みょうらぎ（妙技）　みょうらじ（苗字）

第三十三　リョの長音は、りょうらと書く。

例

一、りゃらをりょうらと書くもの

りょうらぜん（善良）　りょうらほう（両

方）　りょうらと（領土）　せいりょうら

（清涼）　りょうきつ（緊）

×

ぶんりょうら（分量）

二、れらをりょうらと書くもの

りょうらり（料理）　しゅうりょうら（終

了）　かんりょうら（官僚）　りょうら（寮）

せきりょうら（寂寥）　ぶりょうら（無聊）

×

三、れふをりょうらと書くもの

りょうら（鋼）

注意　一

「クヮ・カ」「グヮ・ガ」および「ヂ・ジ」「ヅ・ズ」をいう分けている地方に限り、これを書き分けてもさしつかえない。

注意　二

語例の下に示した漢字中、当用漢字表外のものには×印をつけた。また漢字の右側につけた片かなは旧かなづかいを示す。

〔備考〕

第一　ア列長音は、ア列のかなに「あ」をつけて書く。

第二　イ列長音は、イ列のかなに「い」をつけて書く。

第三　ウ列長音は、ウ列のかなに「う」をつけて書く。

第四　エ列長音は、エ列のかなに「え」をつけて書く。

第五　オ列長音は、オ列のかなに「う」をつけて書くことを本則とする。

第六　ア列拗音の長音は、ア列拗音のかなに「あ」をつけて書く。

第七　ウ列拗音の長音は、ウ列拗音のかなに「う」をつけて書く。

第八　オ列拗音の長音は、オ列拗音のかなに「う」をつけて書くことを本則とする。

第九　拗音をあらわすには、「や」「ゆ」「よ」を用い、なるべく右下に小さく書く。

第十　促音をあらわすには、「つ」を用い、なるべく右下に小さく書く。

印刷　昭